
絶滅危惧? A類「ハリヨ」

山中幸盛

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

絶滅危惧？A類「ハリヨ」

【Nコード】

N6355U

【作者名】

山中幸盛

【あらすじ】

絶滅危惧種であるハリヨが、DNA鑑定の結果、ハリヨではなくなっていた、というニュースに触れて書いたショートストーリー。

*（お断り）このショートショートは、山中幸盛のブログ「妻は宇宙人」に掲載されているものと同一のものです。

本年五月十三日の朝、ラジオから次のようなニュースが流れてきた。

滋賀県と岐阜県の一部にしか生息せず、絶滅のおそれが指摘されている淡水魚の「ハリヨ」が、主な生息地である滋賀県米原市の川では絶滅した可能性が高いことが、岐阜経済大学などの調査でわかりました。外部から持ち込まれた別の魚と交配が進んだことが原因とみられ、保護に取り組んできた地元の人たちを落胆させています。

トゲウオ科の淡水魚のハリヨは、国が「ごく近い将来、絶滅する危険性がきわめて高い生物」に指定し、生息地として名高い滋賀県米原市の地蔵川では、条例で捕獲が禁止され、ハリヨをシンボルにした町おこしも行われてきました。しかし、このところ体の特徴に変化が見られたことから、岐阜経済大学の森誠一教授らの研究グループが調査したところ、ハリヨとはDNAが一致せず、別の魚に変わっていたことがわかりました。川にはおよそ100匹のハリヨが生息するとされていましたが、調査では数十匹の魚すべてが別の魚だったということで、ハリヨは、この川では絶滅した可能性が高いとみられています。森教授は「誰かがハリヨの仲間の別の魚を放流するなどして交配が進んだのではないか」と話しています。地元で保護活動が続けてきた岡野錦司さんは「地区をあげて保護してきただけに残念だ。近くの川にかつて移しておいたハリヨがいるので、それを増やして川に放したい」と話しています。

「おい、きょうのニュースを聞いたか。オレたちや純粹種じゃなくなっちまったらしいぞ」

「それがどうした」

「大変なことになっちまったな」

「なんで」

「なんで、つておまえ、なんとも思わないのか」

「べつに。生き残るためには強くなきゃならねえ、オレたちや進化してるんだよ。それを、町おこしか何だか知らねーが、人集めの道具にされちゃ迷惑だね」

「おまえ、変わってるな」

「ばかえ、おまえたちの方が人間どもに体よく飼い慣らされてきたんだよ。オレたちはトゲウオ科イトヨ属ハリヨってことになってるらしいから、おおかた、奇特な人間がどっからかイトヨを持ってきてこの川に放したんだろうよ。オレたちやセックスなどという原始的な生殖行為はしねーから、そりゃ、自然にイトヨと混ざるわな。だがな、オレたちが純粹でなくちゃならねー理由は何もねー。

人間どもを見てみるよ、やれ白人だ黒人だ反ユダヤ主義だイスラム原理主義だのと骨の髄まで純粹主義に染まっているから殺し合いばかりやってるじゃねーか。人種も民族も宗教もごちゃごちゃに混ざればまちがいなく争いごとは減る、こんな簡単なことがわからねえ人間は救いようがねーな」

「たしかに、岡野錦司とやらが『近くの川にかつて移しておいたハリヨがいるので、それを増やして川に放したい』と言っているというから、純粹種じゃなくなったオレたちや抹殺されるんだろうな。

『地蔵川とハリヨを守る会』の岡野錦司や大橋邦男はヒトラーの生まれ変わりだな」

「ばーか、善人ぶりたがるのが人間という生きものだから、奴らはそこまで極悪非道なことはやりやしねーよ。一匹残らず卵一個残さずに、手間暇かけてどっかそこらのわき水がある川にでも移してくれるさ」

「おまえ、いがいと樂觀主義者なんだな」

「というより現実主義者なんだよ。たぶん、奴らは用済みのオレたちを金は使わずにボランティアを使って乱暴に扱うだろうから、移される途中でかなりの仲間が死ぬだろうよ。それはオレかも知れねーし、おまえやおまえの家族かもしれねー。運良く生き残ったとし

ても、オレたちや邪魔者扱いだ」

「オレたちや用済みなんだな」

「そうだ。希少価値崇拜差別主義は人間だけに与えられた特権だからな、あきらめろ」

「ちくしょう、オレたちが何をやってたってんだ、何も悪いことはやってねーぞ」

「怒っても泣いてもなんにも変わりやしねーよ。今のうちにうまいもんを死ぬほど食って、そんな時を待とうぜ。おっ、久しぶりにオレの大好物が落ちてきた」

地蔵川に七歳と五歳の兄弟がやってきた。兄は釣りザオを手にしている。

「お兄ちゃん、この川で魚釣っちゃだめなんだよ」

「わかってるよ。ハリヨはゼツメツキグシュだからな」

「だったらやめようよ」

「ところが、今日からはもう解禁になったんだ。ハリヨがハリヨでなくなったんだからな」

「それじゃあ、ハリヨはどこに行ったの？ あそこの梅花藻ばいかもの横で泳いでいるのはハリヨじゃないの？」

「どこだ？ おっ、おまえ目がいいなあ、そらよつと」

兄は釣りザオをあやつって、元ハリヨの目の前にエサを落とし込んだ。

* 文芸同人誌「北斗」第570号（平成22年9月号）に掲載

* 「妻は宇宙人」/ウェブリブログ <http://12393912.at.webry.info/>

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6355u/>

絶滅危惧?A類「ハリヨ」

2011年10月9日08時12分発行